

- テスラモーターズジャパン、テスラ「モデル3」のタッチスクリーンに不具合があるとしてリコール 2021年10月27日～2022年2月16日に輸入した1420台
急速充電中またはその準備中に、タッチスクリーンの演算処理装置の冷却プログラムが不十分なため十分な冷却が行われない場合がある。そのため、演算処理装置の処理速度の低下や再起動が行われ、タッチスクリーンが映らない、あるいは遅延し、最悪の場合ドライブモードや警告などの操縦装置等に係る必要な表示が行われず、衝突危険性が高まるおそれがある。
- ホンダ、「N-BOX」「N-BOXカスタム」「N-WGN」「N-WGNカスタム」「N-VAN」「N-ONE」「N-BOXスラッシュ」「S660」について、低圧燃料ポンプに不具合があるとしてリコール 2018年3月21日～同年12月21日に生産した21万9623台
低圧燃料ポンプのインペラ（樹脂製羽根車）にて、成形条件が不適切なため、樹脂密度が低くなって、燃料により膨潤して変形することがある。そのため、インペラがポンプカバーと接触して燃料ポンプが作動不良となり、最悪の場合、走行中エンストに至るおそれがある。
- トヨタ自動車、「ノア」「ヴォクシー」のブレーキに不具合があるとしてリコール 2021年12月1日～2022年5月25日に生産した1万8784台
車両減速と操舵を支援するプロアクティブドライビングアシスト(PDA)にて、制御プログラムが不適切なため、PDAによる減速制御中にブレーキペダルを操作すると、制御終了後もブレーキが作動したままとなる場合がある。そのため、加速不良が発生し、そのままの状態で使用を続けると、ブレーキ過熱により発煙し、最悪の場合、火災に至るおそれがある。
- ジャガー・ランドローバー・ジャパン、ジャガー「E-PACE」等8車種のアクセサリベルトテンショナーとパワートレインコントロールモジュールに不具合があるとしてリコール 2021年2月3日～2022年4月20日に輸入した1013台
アクセサリベルトテンショナーについては、アクセサリベルトの張力を一定に保つためのオートテンショナーのばねの耐久性が不適切なため、経時劣化により張力が低下すると、当該ベルトに振れの発生と共に負荷がかかり折損することがある。パワートレインコントロールモジュールについては、セルモーターでエンジンを始動する条件を正しく検知できないために、セルモーターが作動せず、常に原動機の再始動用モーターが使用され、その結果再始動用モーターを駆動するアクセサリベルトに負荷がかかり、当該ベルトが折損することがある。そのため、そのまま使用を続けると、最悪の場合、発電不足により警告灯が点灯し、バッテリーが上がり、燃料装置、点火装置等の電装品の使用が出来ず、原動機が停止し走行不能あるいはオーバーヒートに至るおそれがある。
- 日産自動車、「キックス」の後輪アクスルボルトに不具合があるとしてリコール 2020年5月18日～2021年11月1日に生産した4736台
ハブを固定するアクスルボルトの締結作業が不適切なため、走行振動等によりボルトが緩み、構成部品がガタつき異音が発生するおそれがある。そのままの状態で使用を続けると、最悪の場合、ボルトが抜けてハブに干渉しホイールがロックするおそれがある。
- BMWジャパン、「3シリーズ」等21車種について、エンジンのブローバイヒーターに不具合があるとしてリコール 2004年10月20日～2011年9月5日に生産した5万2527台
エンジンのブローバイガス還元装置において、ブローバイガスヒーターのプラスチック製造が不適切なため正温度特性(PTC)ヒーターエレメントへの絶縁体に不規則性が生じ、時間の経過とともにショートする可能性があるが、ヒューズによって確実に保護されない。そのため、PTCヒーターエレメントが異常発熱して外装が溶け、エンジン警告灯が点灯し最悪の場合、火災に至るおそれがある。
- フォルクスワーゲングループジャパン、「ポロ」等計14車種について、燃料漏れの恐れがあるとしてリコール 2015年6月20日～2019年8月30日に輸入した9万1241台
エンジンに装着されている燃料パイプの取付けボルトにおいて、締め付けトルクの設計値が不適切なため、走行振動等によりボルトが緩むものがある。そのため、燃料漏れにより、ガソリン臭の発生とともに、エンジン制御システム故障の警告灯が点灯し、最悪の場合、走行不能になるおそれがある。
- トヨタ自動車、「プリウス」のハイブリッドシステムに不具合があるとしてリコール 2009年5月14日～2014年2月5日に生産した8669台
異常判定時の制御プログラムが不適切なため、極低速から急加速するような高負荷走行時等に昇圧回路の素子が損傷した場合、フュールセーフモードに移行できないことがある。そのため、警告灯が点灯し、ハイブリッドシステムが停止して、走行不能となるおそれがある。
- 三菱自動車、「アウトランダーPHEV」のナビゲーションシステムに不具合があるとしてリコール 2021年12月10日～2022年5月26日に生産した7812台
ナビゲーションシステムの制御プログラム設定不備により、起動時にシステム内の情報処理が完了せず、再起動を繰り返す場合がある。また、電源変動時によりシステム内の通信が途絶えた場合、復旧処理が行われないためカメラ映像に切り替わらず、黒画面となる場合がある。現在、保安基準第44条では助手席側前方の視界確認のためのサイドアンダーミラー（直前直左鏡）またはそれに準ずるカメラの設置が義務付けられているが、不具合により、液晶画面にサイドアンダーミラー確認用のカメラ映像が表示されず、保安基準第44条に適合しなくなるおそれがある。
- フォルクスワーゲングループジャパン、アウディ「A3スポーツバック 1.4 TFSI 90kW」等計5車種について、燃料漏れの恐れがあるとしてリコール 2015年6月20日～2018年11月10日に輸入した2万0012台
エンジンに装着されている燃料パイプの取付けボルトにおいて、締め付けトルクの設計値が不適切なため、走行振動等によりボルトが緩むものがある。そのため、燃料漏れにより、ガソリン臭の発生とともに、エンジン制御システム故障の警告灯が点灯し、最悪の場合、走行不能になるおそれがある。